

2020年度学術研究助成研究課題（案）

1 実習施設との連携・協働に関する研究 【課題番号1】

保育実習実施基準を踏まえて、実習指導等における実習施設と養成校との協働をより促すために、それぞれにおける指導方法や、実習参加の基準を含む履修及び評価の基準等の共有への取り組みの実態を明らかにし、そのあり方への提案を期待したい。

2 実習指導体制の実態に関する研究 【課題番号2】

実習を進めるにあたっては、実習内容の指導に留まらず、電話連絡のマナーや個人票等の書類作りの指導など、さまざまな指導や支援が付随しており、そのための組織体制やスタッフの配置について、養成校ごとに様々な工夫がなされている。実習指導体制と業務や役割の分担等の実態や先進事例の調査により、会員校のよりよい取り組みに資するデータを得たい。

3 実習における危機対応等に関する研究 【課題番号3】

実習において、傷病、自然災害への対応、実習記録の紛失、実習内容の SNS への掲載など、さまざまな突発的な事象への対応が必要であり、それらについては、地域の養成校間である程度共有している場合もあるが、多くの場合、各校の判断ややり方に委ねられている。しかし、規準がないことから、判断が難しいことも少なくない。ヒヤリ・ハット事例等を踏まえて、危機対応について標準化するためのガイドライン及びマニュアル等を作成することで、会員校の対応について一定の質保証がなされることが期待される。

4 養成校による現職研修への取り組みの実態に関する研究 【課題番号4】

養成校と保育・福祉の現場との協働がより目指されるようになってきているなかで、養成校が現場の現職研修に貢献することが、保育・福祉の質の向上のみならず、養成校教員の資質向上にもつながり、養成教育の質の向上が期待できる。養成校として現職研修への取り組みを行っている事例を調査することにより、その意義と課題が明らかになり、現場とのよりよい関係を構築することに寄与することが期待される。

5 4年制養成校のカリキュラムの効果に関する研究 【課題番号5】

幼稚園教諭二種免許状について法定講習により一種免許状とする上進制が推進されることが文部科学省から示された中で、保育士資格は修業年限2年の単一資格に留まっており、法定化された職階がなく、国家試験もない。保育士の専門性向上がうたわれキャリアアップが目指される中で、一定の階層性を導入することで、学校種ごとの特色を明確にして養成校間の役割分担を検討することが求められる。そうした議論の材料として、修業年限の違いによる学生の保育者としての育ちの違いについてデータを得たい。